

「河川水質環境基準に係る類型指定（案）」に対する府民意見等の募集結果及び水質部会の考え方について

- 募集期間：平成28年8月10日（水曜日）から9月8日（木曜日）まで
- 募集方法：インターネット（電子申請）、郵便、ファクシミリ
- 提出意見数：2名から2件

寄せられたご意見等の概要、ご意見等に対する水質部会の考え方は以下のとおりです。

なお、お寄せいただいたご意見は、趣旨を損なわない範囲で一部要約している部分があります。

ご意見等の概要	水質部会の考え方
<p>1. 水無瀬川については大阪府を代表するトップランナーとして上位類型を目指すべきです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の類型指定の見直しのうち、ご意見をいただいた水無瀬川などA類型の水域については、「AA類型の水質を十分に満たし、また、環境基準におけるAA類型の利用目的として定められた『自然探勝の場』としての利用がなされている水域については、AA類型に改定することを検討する」との基本的な考え方により検討を行いました。 ・ 水無瀬川における水質（BOD75%値）については、AA類型の環境基準値を十分下回っています。 ・ 一方、利用状況については、上流部の一部区間において川沿いに「おおさか環状自然歩道」が大阪府により設定されていますが、落石の危険などにより現在はう回措置を行っており、自然探勝を目的とした川へのアクセスが困難です。したがって、現時点では、自然探勝の場としての利用がなされているとは判断できないと考えています。 ・ なお、河川水質環境基準に係る類型指定は、各河川水域の利用状況や水質の状況等の変化に対応して見直していくべきものであり、今後、水無瀬川が自然探勝の場としての利用がなされる状況になれば、ご意見のとおり、AA類型への改定を検討する対象となると考えます。

ご意見等の概要	水質部会の考え方
<p>2. 芥川(1)をAA類型に改定することは、より厳しい基準値を設定する野心的な取組みとします。</p> <p>ただし、環境基準値を厳しく設定するということは水質保全にかかるコストが増すことを意味すると思います。</p> <p>芥川上流には集落や採石場もある環境です。そうしたところでAA類型の環境基準値(BOD1mg/L以下、大腸菌群数50MPN/100mL以下)を保つことが果たして現実的なのか少し疑問を感じます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の類型指定の見直しのうち、ご意見をいただいた芥川(1)などAA類型の水域については、「AA類型の水質を十分に満たし、また、環境基準におけるAA類型の利用目的として定められた『自然探勝の場』としての利用がなされている水域については、AA類型に改定することを検討する」との基本的な考え方により検討を行いました。検討にあたっては、水質の状況(河川の代表的な汚濁指標であるBODの状況)、水域の利用状況、発生源の状況等を詳細に検証しました。 ・ まず、芥川(1)における水質(BOD75%値)については、AA類型の環境基準値を十分下回っています。 ・ 次に、利用状況については、芥川中流部に位置し、北摂地域を代表する渓谷美で知られる摂津峡において、渓谷沿いのハイキングコースが整備されているなど、自然探勝の場としての利用がなされています。 ・ さらに、発生源の状況として、BOD汚濁負荷量の推計を行っており、その中には、ご意見に示された上流域の集落や採石場からの負荷量が含まれています。汚濁負荷量の推計結果では、各種発生源が河川水質に与える汚濁負荷のインパクトは小さく、また将来的に大きな変化はないと見込まれます。 ・ 以上のとおり、水質の状況、水域の利用状況、発生源の状況等を検証した結果、芥川(1)については、これまで大阪府内で指定のなかったAA類型を初めて指定することが適当であると結論づけたものです。 ・ 上記の水質及びBOD汚濁負荷量の検証結果から、ご意見をいただいた水質保全のための新たなコストを生じさせることはないと考えられます。 ・ また、大腸菌群数については、平成26年度は、府内の大腸菌群数の測定を行っている芥川(1)の塚脇橋を含むA、B類型のほとんどの地点で環境基準値を超過する値がみられました。また、大腸菌群数とBODの間には明らかな相関性はみられませんでした。 ・ 大腸菌群数について、国の検討会(今後の水環境保全に関する検討会「今後の水環境保全の在り方について(取りまとめ)」:平成23年3月)においては、『『ふん便汚染が想定されない山間部の河川等においても基準値を大きく上回る大腸菌群数が測定されるなど指標性に乏しい』との指摘があることから、大腸菌群数に代わる指標として大腸菌等に関する基準を検討すべき」とされています。 ・ このため、今回の類型指定にあたっての基本的な考え方においては、大腸菌群数は、「類型指定にあたって検討する項目とは

	<p>せず、引き続き個別に水質の状況を監視していくべきものと考えられる。」としております。</p> <ul style="list-style-type: none">・なお参考に全国の状況については、「平成 26 年度公共用水域水質測定結果（平成 27 年 12 月 環境省水・大気環境局）」によると、平成 26 年度は、全国の A A 類型指定水域における大腸菌群数の総検体数 4,507 検体のうち、83.5%にあたる 3,763 検体が環境基準値を超過しています。
--	--